Cisco IP 電話の設置

- ネットワーク セットアップの確認 （1 ページ）
- オンプレミス電話用のアクティベーションコードのオンボーディング （2 ページ）
- アクティベーション コード オンボーディングとモバイルおよびリモート アクセス （3 ページ）
- 電話機の自動登録の有効化 （4 ページ）
- Cisco IP 電話の設置 （6 ページ）
- セットアップ メニューからの電話機のセットアップ （8 ページ）
- ネットワークの設定 （11 ページ）
- 電話機起動の確認 （20 ページ）
- ユーザの電話サービスの設定 （20 ページ）
- ユーザの電話モデルを変更 （21 ページ）

ネットワーク セットアップの確認

新しい IP テレフォニー システムを導入するときは、システム管理者とネットワーク管理者がいくつかの初期設定作業を実施して、ネットワークを IP テレフォニー サービス用に準備する必要があります。 Cisco IP テレフォニー ネットワークのセットアップと設定のチェックリストについては、特定の Cisco Unified Communications Manager リリース向けのドキュメントを参照してください。

電話機がネットワーク内のエンドポイントとして正常に動作するためには、電話ネットワークが特定の要件を満たしている必要があります。 1 つの要件は適切な帯域幅です。 電話機は、Cisco Unified Communications Manager への登録時には、推奨される 32 kbps を超える帯域幅を必要とします。 QoS 帯域幅を設定する際は、これ以上の帯域幅要件を考慮してください。 詳細については、『*Cisco Collaboration System 12.x Solution Reference Network Designs (SRND)*』またはそれ以降（https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/cucm/srnd/collab12/collab12.html）を参照してください。

（注） 電話機は、Cisco Unified Communications Managerから取得した日時を表示します。 電話機に表示される時間は、Cisco Unified Communications Managerの時間と 10 秒以内の誤差がある場合があります。

手順

ステップ 1 次の要件を満たすように VoIP ネットワークを設定します。

- ルータおよびゲートウェイ上で VoIP が設定されている。
- Cisco Unified Communications Manager がネットワークにインストールされ、コール処理用に設定されている。

ステップ 2 次のいずれかをサポートするようにネットワークをセットアップします。

- DHCP のサポート
- 手動による IP アドレス、ゲートウェイ、およびサブネット マスクの割り当て

関連トピック

Cisco Unified Communications Manager マニュアル

オンプレミス電話用のアクティベーションコードのオンボーディング

アクティベーションコードオンボーディングを使用すると、自動登録なしで新しい電話機をすばやく設定できます。 この方法では、次のいずれかを使用して電話のオンボーディングプロセスを制御します。

- Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール（BAT）
- Cisco Unified Communications Manager Administration インターフェイス
- Administrative XML Web Service（AXL）

からこの機能を有効にする**デバイス情報** Phone Configuration ページのセクション。 選択する**オンボーディング用のアクティベーションコードを要求する**この機能を 1 つのオンプレミス電話に適用したい場合。

電話を登録する前に、ユーザはアクティベーションコードを入力する必要があります。 アクティベーションコードオンボーディングは、個々の電話機、電話機のグループ、またはネットワーク全体に適用できます。

ユーザは 16 桁のアクティベーションコードを入力するだけなので、ユーザが自分の電話機に搭載するのは簡単な方法です。 コードは手動で入力するか、電話機にビデオカメラがある場合はQR コードを入力します。 ユーザにこの情報を提供するには、安全な方法を使用することをお勧めします。 ユーザーに電話機が割り当てられている場合、その情報は Self Care Portal で利用できます。 監査ログは、ユーザがポータルからコードにアクセスしたときに記録します。

アクティベーションコードは 1 回しか使用できず、デフォルトでは 1 週間後に期限切れになります。 コードの有効期限が切れた場合は、ユーザに新しいコードを提供する必要があります。

製造元設置証明書（MIC）とアクティベーションコードが検証されるまで電話を登録できないため、このアプローチはネットワークを安全に保つための簡単な方法であることがわかります。 この方法は、自動登録電話サポート（TAPS）または自動登録のためのツールを使用しないため、オンボード電話を一括処理するのにも便利な方法です。 オンボーディングの速度は、1 秒あたり 1 台の電話、または 1 時間あたり約 3600 台の電話です。 電話機は、Cisco Unified Communications Manager の管理機能、管理 XML Web サービス（AXL）、または BAT を使用して追加できます。

既存の電話機は、アクティベーションコードのオンボーディング用に設定された後にリセットされます。 アクティベーションコードが入力され、電話機の MIC が確認されるまで、登録は行われません。 あなたがそれを実装する前にあなたがアクティベーションコードオンボーディングに向かって動いていることを現在のユーザに知らせてください。

詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* および *IM and Presence Service* リリース *12.0(1)* 以降のアドミニストレーション ガイドを参照します。

アクティベーションコードオンボーディングとモバイルおよびリモート アクセス

リモートユーザ用の Cisco IP 電話を導入する場合は、モバイルおよび Remote Access でアクティベーション コードオンボーディングを使用できます。 この機能は、自動登録が不要な場合に、オフプレミスの電話機を導入するための安全な方法です。 ただし、オンプレミスの場合は自動登録用に、電話機をオフプレミスの場合はアクティベーションコードとして設定できます。 この機能は、オンプレミスの電話機のアクティベーションコードオンボーディングと似ていますが、オフプレミスの電話機でもアクティベーションコードを利用できます。

モバイルおよび Remote Access のアクティベーションコードのオンボーディングでは、Cisco Unified Communications Manager 12.5(1)SU1 以降、および Cisco Expressway X12.5 以降が必要です。 また、スマートライセンスも有効にする必要があります。

この機能は、Cisco Unified Communications Manager Administration から有効にすることができます。ただし、次の点に注意してください。

- からこの機能を有効にする**デバイス情報** Phone Configuration ページのセクション。
- この機能を 1 つのオンプレミス電話に適用したい場合は、**オンボーディング用のアクティベーション コードを要求する**を選択します。

- アクティベーション オンボーディング機能を 1 つのオフプレミス電話に適用したい場合は、**MRA 経由でアクティベーション コードを許可する** および **オンボーディング用のアクティベーション コードを要求する** を選択します。 電話機がオンプレミスの場合は、モバイルおよび Remote Access モードに変更され、Expressway を使用します。 電話機が Expressway にアクセスできない場合、その電話機がオフプレミスになるまで登録されません。

詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- *Cisco Unified Communications Manager* および *IM and Presence Service* アドミニストレーション ガイド、リリース *12.0(1)*
- Cisco Expressway X12.5 以降用 *Cisco Expressway* 経由のモバイル & *Remote Access*

電話機の自動登録の有効化

Cisco IP 電話 は、コールの処理に Cisco Unified Communications Manager を必要とします。 Cisco Unified Communications Manager を正しくセットアップして、電話機を管理し、コールを適切にルーティングおよび処理するには、該当する Cisco Unified Communications Manager リリースまたは Cisco Unified Communications Manager Administration の状況依存ヘルプを参照してください。

Cisco IP 電話を設置する前に、電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する方法を選択しておく必要があります。

電話機を設置する前に自動登録を有効にしておくと、次のことが可能になります。

- 事前に電話機から MAC アドレスを収集することなく、電話機を追加する。
- Cisco IP 電話を IP テレフォニー ネットワークに物理的に接続したときに、その電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースに自動的に追加する。 自動登録中に、Cisco Unified Communications Manager は連続する電話番号の中から次に使用可能なものを電話機に割り当てます。
- 電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースにすばやく登録し、電話番号などの設定を Cisco Unified Communications Manager から変更する。
- 自動登録された電話機を新しい場所に移動し、電話番号を変更しないまま別のデバイス プールに割り当てる。

自動登録は、デフォルトでは無効になっています。 自動登録を使用しない方がよい場合もあります。たとえば、電話機に特定の電話番号を割り当てる場合や、Cisco Unified Communications Manager とのセキュア接続を使用する場合です。 自動登録の有効化の詳細については、該当する Cisco Unified Communications Manager リリースのマニュアルを参照してください。 Cisco CTL クライアントを通じてクラスタを混合モードに設定すると、自動登録が自動的に無効になりますが、これを有効に設定できます。 Cisco CTL クライアントを通じてクラスタを非セキュア モードに設定すると、自動登録は自動的には有効になりません。

自動登録と TAPS（Tool for AutoRegistered Phones Support）を使用すると、MAC アドレスを最初に電話機から収集しなくても、電話機を追加することができます。

TAPS は、一括管理ツール（BAT）と連携して、Cisco Unified Communications Manager データベースにダミー MAC アドレスを使用して追加された一連の電話機をアップデートします。TAPS を使用して、MAC アドレスを更新し、デバイス向けに事前定義された設定をダウンロードします。

自動登録と TAPS は、ネットワークに追加する電話機が 100 台未満の場合に使用することを推奨します。 100 台を超える電話機をネットワークに追加するには、一括管理ツール（BAT）を使用します。

TAPS を利用するには、管理者またはエンド ユーザが TAPS の電話番号をダイヤルして、音声プロンプトに従います。 このプロセスが完了した後、電話機には電話番号とその他の設定値が含まれており、電話機は正しい MAC アドレスを使用して Cisco Unified Communications Manager Administration で更新されます。

ネットワークに Cisco IP 電話を接続する前に、自動登録が Cisco Unified Communications Manager Administration で有効になっていて、正しく設定されていることを確認します。 自動登録の有効化および設定の詳細については、該当する Cisco Unified Communications Manager リリースのマニュアルを参照してください。

TAPS が機能するためには、Cisco Unified Communications Manager Administration で自動登録を有効にする必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration で、**[システム（System）]** > **[Cisco Unified CM]** をクリックします。

ステップ 2 **[検索（Find）]** をクリックして、必要なサーバーを選択します。

ステップ 3 [自動登録の情報（Auto-registration Information）]で、これらのフィールドを設定します。

- **[ユニバーサルデバイステンプレート(Universal Device Template)]**
- **[ユニバーサル回線テンプレート(Universal Line Template)]**
- **[開始電話番号(Starting Directory Number)]**
- **終了電話番号（Ending Directory Number）**

ステップ 4 [この Cisco Unified CM では自動登録は無効にする（Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager）]チェックボックスをオフにします。

ステップ 5 **[保存（Save）]** をクリックします。

ステップ 6 **[設定の適用（Apply Config）]** をクリックします。

関連トピック

Cisco Unified Communications Manager マニュアル

Cisco IP 電話の設置

Cisco IP 電話の設置

電話機がネットワークに接続されると、電話機の起動プロセスが開始され、Cisco Unified Communications Manager に登録されます。 電話機の設置を完了するには、DHCP サービスを有効にするかどうかに応じて、電話機上でネットワーク設定値を設定します。

自動登録を使用した場合は、電話機をユーザに関連付ける、ボタンテーブルや電話番号を変更するなど、電話機の特定の設定情報をアップデートする必要があります。

（注） 外部デバイスを使用する前に、外部デバイスを参照してください。

机上に LAN ケーブルが 1 本しかない場合、SW ポートで電話機を LAN に接続し、コンピュータを PC ポートに接続します。 詳細については、コンピュータとの有線ネットワーク接続の共有 （8 ページ） を参照してください。

また、2 台の電話機をデイジーチェーンで接続することもできます。 1 台目の電話機の PC ポートを 2 台目の電話機の SW ポートに接続します。

注意 SW ポートと PC ポートは LAN に接続しないでください。

手順

ステップ 1 電話機の電源を次の中から選択します。

- Power over Ethernet（PoE）
- 外部電源

詳細については、電話機の所要電力 を参照してください。

ステップ 2 ハンドセット ポートにハンドセットを接続し、ケーブル チャネルにケーブルを押し込みます。

ワイドバンド対応ハンドセットは、Cisco IP 電話で使用するために特別に設計されたものです。ハンドセットは、着信コールやボイス メッセージがあることを通知する、ライト ストリップを備えています。

注意
電話機のチャネルにケーブルをきちんと押し込まない場合、ケーブルが損傷を受ける可能性があります。

ステップ 3 ヘッドセット ポートにヘッドセットを接続し、ケーブル チャネルにケーブルを押し込みます。ヘッドセットは設置の際に接続しなくても、後から追加できます。

（注）

Cisco IP 電話 7811 にはヘッドセット ポートがありません。

注意
電話機のチャネルにケーブルをきちんと押し込まない場合、ケーブルが損傷を受ける可能性があります。

ステップ 4 ワイヤレス ヘッドセットの接続。 ワイヤレス ヘッドセットは設置の際に接続しなくても、後から追加できます。 詳細については、ワイヤレス ヘッドセットのマニュアルを参照してください。

（注）
Cisco IP 電話 7811 はヘッドセットをサポートしていません。

ステップ 5 ストレート イーサネット ケーブルを使用して、スイッチを Cisco IP 電話の 10/100 SW （Cisco IP 電話 7841 の 10/100/1000 SW）というラベルの付いたネットワーク ポートに接続します。 Cisco IP 電話には、イーサネット ケーブルが 1 本同梱されています。

10 Mbps 接続にはカテゴリ 3、5、5e、または 6 のケーブル接続を使用します。100 Mbps 接続には 5、5e、または 6 を使用します。1000 Mbps 接続にはカテゴリ 5e または 6 を使用します。 詳細については、ネットワーク ポートとコンピュータ ポートのピン割り当て を参照してください。

ステップ 6 ストレート イーサネット ケーブルを使用して、デスクトップ コンピュータなどの他のネットワーク デバイスを Cisco IP 電話のコンピュータ ポートに接続します。 別のネットワーク デバイスは、ここで接続しなくても後で接続できます。

10 Mbps 接続にはカテゴリ 3、5、5e、または 6 のケーブル接続を使用します。100 Mbps 接続には 5、5e、または 6 を使用します。1000 Mbps 接続にはカテゴリ 5e または 6 を使用します。 ガイドラインの詳細については、ネットワーク ポートとコンピュータ ポートのピン割り当てを参照してください。

ステップ 7 電話機を机の上に置く場合は、フットスタンドを調整します。 電話機を壁に取り付ける場合は、受話器が受け台から滑り落ちないようにハンドセットの受け台を調整する必要があります。

（注）
Cisco IP 電話 7811 のフットスタンドを調整することはできません。

ステップ 8 電話機の起動プロセスをモニタします。 この手順により、電話機が正しく設定されていることを確認できます。

ステップ 9 電話上でネットワーク設定値を設定する場合、DHCP を使用するか、手動で IP アドレスを入力して、電話機の IP アドレスを設定します。

ステップ 10 最新のファームウェア イメージに電話機をアップグレードします。

ステップ 11 Cisco IP 電話でコールを発信し、電話機と各機能が正常に動作することを確認します。

『*Cisco IP* 電話 *7800 Series User Guide*』を参照してください。

ステップ 12 エンド ユーザに対して、電話機の使用方法および電話機のオプションの設定方法を通知します。この手順では、ユーザが十分な情報を得て、Cisco IP 電話 を有効に活用できるようにします。

コンピュータとの有線ネットワーク接続の共有

電話機とお使いのコンピュータは、正常に機能するようにネットワークに接続する必要があります。イーサネットポートが 1 つしかない場合は、デバイスでネットワーク接続を共有できます。

始める前に

管理者は、使用する前に、Cisco Unified Communications Manager PC ポートを有効にする必要があります。

手順

ステップ 1 イーサネットケーブルを使用して、電話機 SW ポートを LAN に接続します。
ステップ 2 コンピュータをイーサネット ケーブルで AP のイーサネット ポートに接続します。

セットアップ メニューからの電話機のセットアップ

電話機には多くの設定可能なネットワーク設定が含まれており、ユーザが利用できるように設定を変更することが必要な場合があります。電話機のメニューを使用して、これらの設定値にアクセスし、その一部を変更することができます。

電話機には次のセットアップ メニューがあります。

- [ネットワークのセットアップ（Network Setup）]：さまざまなネットワーク設定値を表示および設定するためのオプションを提供します。
  - [IPv4 のセットアップ（IPv4 Setup）]：このサブメニューは追加のネットワーク オプションを提供します。
  - [IPv6 のセットアップ（IPv6 Setup）]：このサブメニューは追加のネットワーク オプションを提供します。
- [セキュリティのセットアップ（Security Setup）]：さまざまなセキュリティ設定を表示および設定するためのオプションを提供します。

（注） 電話機が [設定（Settings）] メニューにアクセスするかまたはそのメニューのオプションにアクセスするかどうかは制御できます。 アクセスを制御するには、[電話機の設定（Phone Configuration）] ウィンドウの [設定のアクセス（Settings Access）]Cisco Unified Communications Manager Administrationフィールドを使用します。 [設定アクセス（Settings Access）]フィールドでは、次の値を設定できます。

- [有効（Enabled）] : [設定（Settings）] メニューへのアクセスを許可します。
- [無効（Disabled）] : [設定（Settings）] メニューのほとんどのエントリへのアクセスを禁止します。 ユーザは引き続き **[設定]** > **[ステータス]** にアクセスできます。
- [非許可（Restricted）] : [ユーザ設定（User Preferences）]メニュー項目および [ステータス（Status）] メニュー項目へのアクセスを許可し、音量の設定変更の保存を許可します。 [設定（Settings）] メニューの他のオプションへのアクセスは禁止します。

[管理者設定] メニューのオプションにアクセスできない場合は、**[アクセスの設定]** フィールドを確認してください。

Cisco Unified Communications Manager Administrationの電話で、表示専用になっている設定値を設定します。

手順

ステップ 1 **[アプリケーション（Applications）]** を押します。

ステップ 2 [管理者設定（Admin Settings）]を選択します。

ステップ 3 要求されたらパスワードを入力し、[サインイン（Sign-In）]をクリックします。

ステップ 4 [ネットワークのセットアップ（Network Setup）]または[セキュリティのセットアップ（Security Setup）]を選択します。

ステップ 5 次のいずれかの操作を実行して、目的のメニューを表示します。

- ナビゲーション矢印を使用して目的のメニューを選択し、**[選択]** を押します。
- 電話機のキーパッドを使用して、メニューに対応する番号を入力します。

ステップ 6 サブメニューを表示するには、ステップ 5 を繰り返します。

ステップ 7 メニューを終了するには、[戻る（Back）]を押します。

電話機パスワードの適用

電話機にパスワードを適用できます。 適用すると、[管理者設定（Admin Settings）] 電話スクリーンでパスワードを入力しない限り、電話機の管理者オプションは変更できません。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration で、[共通の電話プロファイルの設定（Common Phone Profile Configuration）] ウィンドウに移動します（**[デバイス（Device）] > [デバイス設定（Device Settings）] > [共通の電話プロファイル（Common Phone Profile）]**）。

ステップ 2 [電話ロック解除パスワード（Local Phone Unlock Password）] オプションで、パスワードを入力します。

ステップ 3 電話機が使用する共通の電話プロファイルに、パスワードを適用します。

電話機からのテキストとメニューの入力

オプション設定値を編集するときは、次のガイドラインに従ってください。

- ナビゲーション パッドの矢印を使用して、編集するフィールドを強調表示します。 ナビゲーション パッドの**選択**を押して、フィールドをアクティブにします。 フィールドがアクティブになったら、値を入力できます。
- 数値と文字を入力するには、キーパッド上のキーを使用します。
- キーパッドを使用して文字を入力するには、対応する数値キーを使用します。 キーを 1 回または何回か押して、個々の文字を表示します。 たとえば、**2** キーを 1 回押して 「a」、すばやく 2 回押して 「b」、すばやく 3 回押して 「c」 を表示します。一時停止すると、カーソルが自動的に進み、次の文字を入力できます。
- 間違えた場合は、ソフト キー を押します。 このソフトキーを押すと、カーソルの左側にある文字が削除されます。
- 変更内容を破棄するには、[適用（Apply）]を押す前に [元に戻す（Revert）]を押します。
- （IP アドレスなどに含まれる）ピリオドを入力するには、キーパッドの [*]を押します。
- IPv6 アドレスのコロンを入力するには、キーパッドの ***** を押します。

（注） Cisco IP 電話では、必要に応じて、いくつかの方法でオプション設定値をリセットまたは復元することができます。

ネットワークの設定

手順

ステップ 1 **[アプリケーション（Applications）]** を押します。

ステップ 2 [ネットワーク設定（Network Settings）] メニューにアクセスするには、**[管理者設定（Admin settings）]** > **[ネットワークのセットアップ（Network Setup）]** を選択します。

ステップ 3 の説明に従って、フィールドを設定します。

ステップ 4 フィールドを設定した後、[適用（Apply）] および [保存（Save）] を選択します。

ステップ 5 電話機をリブートします。

ネットワークのセットアップ

[ネットワークのセットアップ（Network Setup）] メニューには、IPv4 と IPv6 のためのフィールドとサブメニューが含まれています。 いくつかのフィールドを変更するには、まず DHCP を無効にしてください。

表 *1 : [*イーサネットのセットアップ（*Ethernet Setup***）*]* メニューのオプション**

エントリー	タイプ（Type）	デフォルト	説明
IPv4 のセットアップ（IPv4 setup）	メニュー		IPv4 フィールドに関するセクションを参照してください。 このオプションは、電話機が IPv4 専用モードまたは IPv4/IPv6 モードに設定されている場合にのみ表示されます。
IPv6 のセットアップ（IPv6 setup）	メニュー		「IPv6 フィールド」のセクションを参照してください。
ホスト名（Host Name）	文字列		DHCP サーバが電話機に割り当てたホスト名。
ドメイン名	文字列		電話機が所属するドメイン ネーム システム（DNS）ドメインの名前。 このフィールドを変更するには、DHCP を無効にしてください。

エントリー	タイプ（Type）	デフォルト	説明
接続先 VLAN ID（Operational VLAN ID）			電話機が所属する、Cisco Catalyst スイッチに設定された補助 VLAN。 この設定は、補助VLANまたは管理VLANが設定されている場合にはブランクです。 電話機が補助VLANをまだ受信していない場合、このオプションは管理 VLAN を示しています。 Cisco Discovery Protocol または Link Level Discovery Protocol Media Endpoint Discovery が有効になっている場合、電話機は管理VLANから接続先VLANを継承しません。 VLAN ID を手動で割り当てるには、[管理 VLAN ID（Admin VLAN ID）] オプションを使用します。
[管理 VLAN ID（Admin VLAN ID）]			電話機がメンバーになっている補助 VLAN。 電話機がスイッチから補助VLANを受信していない場合のみ使用され、その他の場合は値が無視されます。
PC VLAN			ボイスVLANをサポートしないサードパーティスイッチと電話機が連携できるようにします。このオプションを変更する前に、[管理VLAN ID（Admin VLAN ID）] オプションを設定する必要があります。

エントリー	タイプ（Type）	デフォルト	説明
SW ポートのセットアップ（SW Port Setup）	Auto Negotiate 1000 フル（10 Full） 100 ハーフ（100 Half） 10 ハーフ（100 Half） 10 フル（10 Full）	Auto Negotiate	ネットワーク ポートの速度と二重化モード。 次の有効な値を指定します。 • Auto Negotiate • [1000 フル（1000 Full）]：1000-BaseT/全二重 • [100 ハーフ（100 Half）]：100-BaseT/半二重 • [100 フル（100 Full）]：100-BaseT/全二重 • [10 ハーフ（10 Half）]：10-BaseT/半二重 • [10 フル（10 Full）]：10-BaseT/全二重 電話機がスイッチに接続されている場合は、スイッチ ポートを電話機と同じ速度に設定するか、両方を自動ネゴシエーションに設定します。 この設定を編集する場合には、ネットワーク設定オプションをロック解除してください。 このオプションの設定値を変更する場合は、[PC ポート設定（PC Port Configuration）] オプションを同じ設定値に変更する必要があります。

エントリー	タイプ（Type）	デフォルト	説明
PC ポートのセットアップ（PC Port Setup）	Auto Negotiate 1000 フル（10 Full） 100 ハーフ（100 Half） 10 ハーフ（100 Half） 10 フル（10 Full）	Auto Negotiate	コンピュータ（アクセス）ポートの速度とデュプレックス。 有効な値は、次のとおりです。 • Auto Negotiate • [1000 フル（1000 Full）]：1000-BaseT/全二重 • [100 ハーフ（100 Half）]：100-BaseT/半二重 • [100 フル（100 Full）]：100-BaseT/全二重 • [10 ハーフ（10 Half）]：10-BaseT/半二重 • [10 フル（10 Full）]：10-BaseT/全二重 電話機がスイッチに接続されている場合は、スイッチ上のポートを電話機と同じ速度に設定するか、両方を自動ネゴシエーションに設定します。 このフィールドを変更する場合には、ネットワーク設定オプションをロック解除してください。 この設定値を変更する場合は、[SW ポート設定（SW Port Configuration）] オプションを同じ設定値に変更する必要があります。 複数の電話機の設定を同時に行うには、[エンタープライズ電話の設定（Enterprise Phone Configuration）] ウィンドウ（**[システム（System）] > [エンタープライズ電話の設定（Enterprise Phone Configurations）]**）で [リモートポート設定（Remote Port Configuration）] を有効化します。 Cisco Unified Communications Manager Administration で [リモートポート設定（Remote Port Configuration）] にポートが設定されている場合は、電話機でデータを変更することはできません。
UDP-MED			

IPv4 フィールド

表 *2 : [IPv4* のセットアップ（*IPv4 Setup*）*]* メニューのオプション

エントリー	タイプ（Type）	デフォルト	説明
DHCP を使う（DHCP Enabled）			電話機の DHCP が有効か無効かを示します。 DHCP が有効な場合、DHCP サーバによって電話機に IP アドレスが割り当てられます。 DHCP が無効な場合、管理者が、電話機に手動で IP アドレスを割り当てる必要があります。
IP アドレス（IP Address）			電話機のインターネット プロトコル（IP）アドレス。 IP アドレスをこのオプションで割り当てる場合は、サブネット マスクとデフォルト ルータも割り当てる必要があります。 この表の [サブネット マスク（Subnet Mask）] オプションと [デフォルト ルータ（Default Router）] オプションを参照してください。
サブネット マスク（Subnet Mask）			電話機で使用されるサブネット マスク。
Default Router			電話機で使用される、デフォルト ルータ。
DNS サーバ 1			電話機が使用するプライマリ ドメイン ネーム システム（DNS）サーバ（DNS サーバ 1）。
代替 TFTP（Alternate TFTP）			電話機が代替 TFTP サーバを使用しているかどうかを示します。

エントリー	タイプ（Type）	デフォルト	説明
TFTP サーバ 1（TFTP Server 2）			電話機で使用される、プライマリの Trivial File Transfer Protocol（TFTP）サーバ。 ネットワークで DHCP を使用していない場合、このサーバを変更するには [TFTP サーバ 1（TFTP Server 1）] オプションを使用する必要があります。 [代替 TFTP（Alternate TFTP）] オプションを [オン（On）] に設定した場合は、[TFTP サーバ 1（TFTP Server 1）]オプションに 0 以外の値を入力する必要があります。 プライマリ TFTP サーバもバックアップ TFTP サーバも、電話機の CTL ファイルまたは ITL ファイルに記述されていない場合は、[TFTP サーバ 1（TFTP Server 1）] オプションの変更内容を保存する前に、これらのファイルをロック解除する必要があります。 この場合、[TFTP サーバ 1（TFTP Server 1）] オプションへの変更を保存すると、ファイルは削除されます。 新しい CTL ファイルまたは ITL ファイルが新しい TFTP サーバ 1 アドレスからダウンロードされます。 電話機が TFTP サーバを探すとき、プロトコルに関係なく、手動で割り当てられた TFTP サーバが優先されます。 IPv6 と IPv4 の両方の TFTP サーバが設定に含まれる場合、電話機は、手動で割り当てられた IPv6 TFTP サーバおよび IPv4 TFTP サーバを優先することによって、TFTP サーバを探す順序の優先順位を決定します。 電話機は、次の順序で TFTP サーバを探します。 **1.** 手動で割り当てられた IPv4 TFTP サーバ **2.** 手動で割り当てられた IPv6 サーバ **3.** DHCP が割り当てられた TFTP サーバ **4.** DHCPv6 が割り当てられた TFTP サーバ （注） CTL ファイルおよび ITL ファイルの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Security Guide*』を参照してください。

エントリー	タイプ（Type）	デフォルト	説明
TFTP サーバ 2（TFTP Server 2）			プライマリの TFTP サーバが使用不能の場合に、電話機で使用されるオプションのバックアップ TFTP サーバ。 プライマリ TFTP サーバもバックアップ TFTP サーバも、電話機の CTL ファイルまたは ITL ファイルに記述されていない場合は、[TFTP サーバ 2（TFTP Server 2）] オプションの変更内容を保存する前に、これらのファイルのいずれかをロック解除する必要があります。 この場合、[TFTP サーバ 2（TFTP Server 2）] オプションへの変更を保存すると、ファイルのいずれかは削除されます。 新しい CTL ファイルまたは ITL ファイルが新しい TFTP サーバ 2 アドレスからダウンロードされます。 CTL ファイルまたは ITL ファイルのロックを解除し忘れた場合、どちらかのファイルで TFTP サーバ 2 アドレスを変更した後、[セキュリティ設定（Security Configuration）] メニューから [削除（Erase）] を押すことによって、それらのファイルを削除できます。 新しい CTL ファイルまたは ITL ファイルが新しい TFTP サーバ 2 アドレスからダウンロードされます。 電話機が TFTP サーバを探すとき、プロトコルに関係なく、手動で割り当てられた TFTP サーバが優先されます。 IPv6 と IPv4 の両方の TFTP サーバが設定に含まれる場合、電話機は、手動で割り当てられた IPv6 TFTP サーバおよび IPv4 TFTP サーバを優先することによって、TFTP サーバを探す順序の優先順位を決定します。電話機は、次の順序で TFTP サーバを探します。 **1.** 手動で割り当てられた IPv4 TFTP サーバ **2.** 手動で割り当てられた IPv6 サーバ **3.** DHCP が割り当てられた TFTP サーバ **4.** DHCPv6 が割り当てられた TFTP サーバ （注） CTL または ITL ファイルの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。

エントリー	タイプ（Type）	デフォルト	説明
DHCP アドレス解放（DHCP Address Released）			DHCP で割り当てられた IP アドレスを解放します。 このフィールドはDHCPが有効な場合に編集できます。VLAN から電話機を削除して、再割り当てのために電話機の IP アドレスを解放する場合は、このオプションを [はい（Yes）] に設定し、[適用（Apply）] を押します。

IPv6 フィールド

IPv6 セットアップ オプションをデバイスで設定する前に、IPv6 を Cisco Unified Communication Administration で有効化し、設定する必要があります。 次のデバイス設定フィールドが IPv6 設定に適用されます。

- IP アドレッシング モード（IP Addressing Mode）
- シグナリング用の IP アドレッシングモード設定（IP Addressing Mode Preference for Signalling）

IPv6 が Unified クラスタで有効な場合、IP アドレッシング モードのデフォルト設定は [IPv4 と IPv6（IPv4 and IPv6）] です。 このアドレッシング モードでは、電話機が 1 つの IPv4 アドレスと 1 つの IPv6 アドレスを取得して使用します。 メディアの必要に応じて IPv4 および IPv6 アドレスを使用できます。 電話機は、コール制御シグナリングに IPv4 または IPv6 のいずれかのアドレスを使用します。

IPv6 の展開の詳細については、『IPv6 Deployment Guide for Cisco Collaboration Systems Release 12.0』を参照してください。

IPv6 は、次のメニューのいずれかからセットアップします。

- Wi-Fi が無効になっている場合：**[イーサネットのセットアップ（Ethernet Setup）]**>**[IPv6 のセットアップ（IPv6 Setup）]**
- WiFi が有効になっている場合：**[Wi-Fi クライアントのセットアップ（Wi-Fi client setup）]**>**[IPv6 のセットアップ（IPv6 Setup）]**

電話機のキーパッドを使用して、IPv6 アドレスを入力または編集します。 コロンを入力するには、キーパッドのアスタリスク（*）を押します。 16 進数の a、b、c を入力するには、キーパッドの 2 を押し、スクロールして数字を選んでから、Enterを押します。 16 進数の d、e、f を入力するには、キー パッドの 3 を押し、スクロールして数字を選んでから、Enterを押します。

次の表は、[IPv6] メニューにある IPv6 関連情報について説明します。

表 *3 : [IPv6* のセットアップ（*IPv6 Setup*）*]* メニューのオプション

ルト値 ） 	エントリ e	説明 p y T	タイプ（
	DHCPv6 有効（DHCPv6 Enabled）	電話機が DHCPv6 を使用してアドレスを取得するために使用する方法を示します。 DHCPv6 が有効の場合、電話機は IPv6 対応ルータによって送信された RA によって SLAAC からまたは DHCPv6 サーバから IPv6 アドレスを取得します。 DHCPv6 が無効の場合、電話機がステートフル（DHCPv6 サーバからの）またはステートレス（SLAAC から）の IPv6 アドレスを持つことはありません。	
	IPv6 アドレス（IPv6 Address）	電話機の現在の IPv6 専用アドレスを表示したり、新しい IPv6 アドレスを入力したりすることができます。 有効な IPv6 アドレスはサブネット プレフィックスを含めて最大 128 ビットです。 次の 2 種類のアドレス形式がサポートされます。 • コロンによって区切られた、8 グループの 16 進数 X:X:X:X:X:X:X:X • 圧縮形式では、ゼロ グループが連続する 1 箇所を二重コロンに短縮して表します。 このオプションを使用して IP アドレスを割り当てる場合は、IPv6 プレフィックス長とデフォルト ルータも割り当てる必要があります。	
	IPv6 プレフィックス長（IPv6 Prefix Length）	サブネット長（IPv6 プレフィックス長）を表示したり、新しいプレフィックス長を入力したりすることができます。 サブネット プレフィックス長は、10 進数値 1 ～ 128 です。	
	IPv6デフォルト ルータ（IPv6 Default Router）	電話機で使用されるデフォルト ルータを表示したり、新しい IPv6 専用デフォルト ルータを入力したりすることができます。	
	IPv6 DNS サーバ 1（IPv6 DNS Server 1）	電話機で使用するプライマリ DNSv6 サーバを表示したり、新しいサーバを入力したりすることができます。	
	IPv6 代替 TFTP（IPv6 Alternate TFTP）	TFTP サーバが代替（secondary TFTP）IPv6 TFTP サーバを使用できるようにします。	
	IPv6 TFTP サーバ 1（IPv6 TFTP Server 1）	電話機で使用するプライマリ IPv6 TFTP サーバを表示したり、新しいプライマリ TFTP サーバを設定したりすることができます。	
	IPv6 TFTP サーバ 2（IPv6 TFTP Server 2）	（任意）プライマリ IPv6 TFTP サーバが使用できないときにセカンダリ IPv6 TFTP サーバを表示するか、ユーザに新しいセカンダリ TFTP サーバの設定を許可します。	
	IPv6 アドレス解放（IPv6 Address Released）	IPv6 関連情報を解放できるようにします。	

電話機起動の確認

Cisco IP 電話が電源に接続されると、起動診断プロセスが自動的に実行されます。

手順

ステップ 1 Power over Ethernet を使用する場合は、LAN ケーブルをネットワーク ポートに差し込みます。

ステップ 2 電源キューブを使用する場合は、キューブを電話機に接続し、キューブを電源コンセントに差し込みます。

起動時のさまざまな段階で、電話機がハードウェアをチェックする間、ボタンがオレンジ色に点滅し、続いて緑色に点滅します。

電話機がこれらの段階を正常に完了すると、正常に起動した状態になります。

（注）
Cisco IP 電話 8861 の場合、電源キューブを使用しているが、Power over Ethernet が利用できないときは、Wi-Fi が有効化されます。

関連トピック

起動時の問題
Cisco IP 電話が通常の起動プロセスを実行しない

ユーザの電話サービスの設定

ユーザが IP フォンの Cisco IP 電話サービスにアクセスできるように設定することができます。また、さまざまな電話のサービスにボタンを割り当てることも可能です。 IP フォンは各サービスを個別のアプリケーションとして管理します。

ユーザがサービスにアクセスできるようにするには、前もって次の作業が必要です。

- Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して、デフォルトで提供されないサービスを設定する必要があります。
- ユーザがCisco Unified Communications セルフケアポータルを使用してサービスを登録する必要があります。 この Web ベース アプリケーションは、IP フォンのアプリケーションをエンド ユーザが設定するための限定的なグラフィカル ユーザ インターフェイス（GUI）を提供します。 ただし、エンタープライズ登録として設定するサービスにユーザは登録できません。

詳細については、お使いの Cisco Unified Communications Manager リリースのマニュアルを参照してください。

サービスを設定する前に、設定するサイトの URL アドレスをすべて入手し、ユーザが社内 IP テレフォニー ネットワークからこれらのサイトにアクセスできるかどうかを確認してください。 このアクティビティは、シスコが提供するデフォルト サービスには適用されません。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administrationで、**[デバイス（Device）] > [デバイスの設定（Device Settings）] > [Phone サービス（Phone Services）]** を選択します。

ステップ 2 ユーザがCisco Unified Communications セルフケアポータルにアクセスでき、そこから設定済みのサービスを選択して登録できることを確認します。

エンドユーザに提供する必要がある情報については、セルフケアポータルの概要を参照してください。

関連トピック

Cisco Unified Communications Manager マニュアル

ユーザの電話モデルを変更

ユーザは、ユーザの電話機モデルを変更できます。 この変更は、次のようにいくつかの理由で必要になる場合があります。

- Cisco Unified Communications Manager (ユニファイド CM) を電話機モデルをサポートしていないソフトウェアバージョンに更新しました。
- ユーザは、現在のモデルからの別の電話機モデルが必要です。
- 電話機を修理または交換する必要があります。

Unified CM は、古い電話機を識別し、古い電話機の MAC アドレスを使用して古い電話機の設定を識別します。 Unified CM によって、古い電話機の設定が新しい電話機のエントリにコピーされます。 その後、新しい電話機は古い電話機と同じ設定になります。

制限（Limitation） : 古い電話機が新しい電話よりも多くの回線または回線ボタンを使用している場合は、新しい電話機に追加回線や回線ボタンは設定されません。

設定が完了すると、電話機が再起動します。

始める前に

*Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*にしたがって、Cisco Unified Communications Managerをセットアップします。

ファームウェアリリース 12.8 (1) 以降に、新しい、使用されていない電話機がプレインストールされている必要があります。

手順

ステップ 1 古い電話機の電源をオフにします。

ステップ 2 新しい電話機の電源を入れます。

ステップ 3 新しい電話機で、**[既存の電話を置き換える (Replace)]** を選択します。

ステップ 4 古い電話機のプライマリ内線番号を入力します。

ステップ 5 古い電話機に暗証番号が割り当てられている場合は、暗証番号を入力します。

ステップ 6 [送信（Submit）]を押します。

ステップ 7 ユーザに複数のデバイスが存在する場合は、置き換えるデバイスを選択して**[続行 (Continue)]** を押します。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。